

[004] 総合文化学論輯表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1954832>

出版情報：総合文化学論輯. 4, 2016-05-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies
バージョン：
権利関係：

総合文化学会活動記録 (2015年11月～2016年5月)

論集「総合文化学論輯」(ISSN 2189-0986) 第3号刊行。2015年11月1日。

地域健康文化学会を吸収する形で統合。2016年4月1日。

論集「総合文化学論輯」(ISSN 2189-0986) 第4号刊行。2016年5月1日。

編集・運営メモ

1. 2014年4月1日、総合文化学会とその運営組織としての総合文化学研究所が発足しました。先立つ母体としての比較思想学会福岡支部が全国学会として独立してのことで、比較思想学会にはことのほかお世話になりました。今後とも親密な関係を保って運営していきたいと思えます。また、地方支部ではできなかった、全国各地や海外の会員も参加して下さい、その領域も総合文化にふさわしく広範な領域にわたり、豊かな出発となりましたことを感謝申し上げます。
2. 2016年4月1日を以て、地域健康文化学会・地域健康文化学研究所を吸収する形で統合しました。
3. 本誌は、国会図書館のご好意によりISSNを得ています。御礼申し上げますとともに、今後、不手際の無いように、発刊ごとに送付しなければなりません。
4. 本誌は、九州大学附属図書館学術情報リポジトリに全巻電子的に格納され、全世界からの閲覧が可能となります。
5. 本誌は、CD-ROMというメディアで刊行します。
今後ともCD-ROMという性格を活用して、さまざまな試みを行っていきたいと思えます。アイデアをお寄せいただければ幸いです。
6. 年度末、年度途中に関わらず、常勤・非常勤を通して会員の異動があります。現実を踏まえて勤務先や肩書きの表記は以下のように行います。
口頭発表に関しては、発表時の立場を記します。
掲載論文については、異動前の立場を記すとともに、編集時に確定しているものは異動後の立場を注記します。
7. 本誌原稿には、専攻、授業科目などなるべく詳しく記します。特に、学生や専任の教職以外の方は自己紹介の意味を含めて詳細にご協力をお願いしました。感謝申し上げます。

8. 講演の場合には、内容の書式と資料を整え論文にふさわしい形にするなどし、また、書評、調査資料、文献資料、企画資料など、資料として保存しておきたいものや、絵画、写真、音声、文芸作品などの掲載も行います。
9. 掲載論文については今号も事務局の責任で複数の査読を実行いたしました。論旨を確認しつつ何度も読み、それに基づいて手を入れていただきました。関係各位に感謝いたします。
10. 口頭発表は原則として、事務局に依頼された時点で、日程調整、会場予約などを行います。一人につき2時間くらいの時間帯を準備し十分に議論することを目的としますが、申し込みが多数の場合は、シンポジウム形式のように、それぞれの発表が相互に関連できるものを優先的にとりあげます。早めの申し込みをお願いします。
11. 年会費（年度区切りは3月/4月）については、規約に基づき全員から徴収します。そのつどの聞き手についてはこれまでどおり当日参加費のみ。論文掲載に関する負担金については、投稿規程を参照のこと。
12. 共同研究についても、当論輯に特集するとともに、単行本刊行を目指したく存じます。興味深いテーマを募集します。
13. この論輯および学会、研究所へのお申し込み、ご意見などは、japan.sccs@gmail.com にお寄せ下さい。
14. この論輯の購入に関しては、支部事務局にEメールで問い合わせてください。
15. 執筆者自身で印刷し抜き刷りを作成することができます。表紙を印刷して付けるか、抜き刷り用の書式をご使用ください。また、全体の印刷・製本も会員に限り可能です。添付の背表紙をご利用ください。
16. 学会運営のスタッフや会費等は毎年度初頭（原則的に4月）に決定し承認しますが、緊急の議題に関してはそのかぎりではありません。
17. 本誌の著作権は総合文化化学研究所に属します。但、当該原稿の著者自身に限り、その限りではありません。
18. 今後研究所や学会の組織編成などさらに議論を重ねて有効なあり方を考えていきたいと存じます。ご意見やアイデアをお寄せ下さい。

理事名簿（2014.4.1 現在）

壬生正博・施光恒・大和裕美子・森敦嗣・山口誠・荒木雪葉
荒木正見（会長・総合文化化学研究所理事長）